

# まちの仕事を見に行こう 施設見学会

町が行っている事業を広く町民の皆さんに知っていただくため、2年に1度開催している「施設見学会」が10月12日に行われ、21名の皆さんが参加して、池部町長がガイド役を務め、マイクロバスで町内を巡回しました。

まず最初にバスは北落合地区に向かい、平成17年度から供用を開始している「一般廃棄物最終処分場」を見学しました。ごみの多さに驚く参加者を前に、池部町長から、「この施設は、当初の計画では平成23年まで使用する計画でありましたが、既に施設容量の42%が埋立て処理されており、このままでは、平成22年にはこの施設での処理を終了しなければならず、新たな処分場を建設するとなると、更に多額の費用が必要になります。」と説明し、今後の更なる一般ごみの適正な分別について協力をお願いしました。

する北海道横断自動車道の建設地に向かい、トマムインターチェンジから開通前の高速道路を走行し、途中串内牧場が見渡せる第1狩勝トンネルと第2狩勝トンネルの間でバスを下車し、東日本高速道路株式会社工事担当者から、工事の概要などについて説明を受けました。



池部町長のガイドに笑顔で耳を傾ける皆さん

その後、落合地区へ移動し、水源涵養林として平成8年度および平成9年度に国有林を取得し、これまでに治山ダムを整備や荒廃森林の整備などを行ってきた「町民憩いの森」を見学し、池部町長から「ダム上流部の安定的な水資源の確保と安全で住みよいまちづくりの形成に積極的に努めています。」との説明がありました。この後現在工事が進められている浄水場の建設地も見学しました。

幾寅地区では、平成18年度に建設し、本年4月から入居が始まった「公営住宅 幾寅しらかば団地」で3階建て公営住宅の概要説明を行い、続いて、町道鹿越幾寅線を通り、凍雪害防止事業について説明を行いながら、ログホテルラーチへと向い、おいしい昼食を取りました。

午後からは、平成11年度から本年度まで道代行事業として整備された「森林管理道湖畔線」を通り、事業の概要について説明を行いながら、かなやま湖が見渡せる場所周辺周辺の景色などを観賞しました。

かなやま湖畔では「フォレストタウン記念植樹地」や「アオダモの森」で植樹についての説明を行いました。

参加者は、大規模な工事の様子に驚いていました。この後、国の地域再生計画として認定され本年4月からオサダ農機株式会社から利用している「旧金山中学校」を訪れ、体育館や校舎の活用状況を見学しました。最後に下金山地区で、平成17年度に建設された「公営住宅下金山西団地」や現在民間業者が建設中の特別養護老人ホームの職員住宅などを見学し、予定した全行程を終了しました。

当日は、天候に恵まれ、紅葉の時期と重なったこともあり、町内のきれいな風景も楽しむことができました。

また、池部町長のガイドにより、バスの中でも終始楽しい雰囲気での見学会となりました。

旧金山中学校体育館に格納されている人参収穫機を見学

その後、幾寅地区宅地分譲地を見学した後、南富良野大乗会が運営する「なんぶ〜香房森のパン屋」を訪れ、杉村所長から施設の概要について説明を聞き、パンの香りが漂う店内から工房の様子を見学しました。

金山地区では、本年8月から工事が始まった「特別養護老人ホーム」の建設現場で、工事の様子を見学しながら、施設概要について池部町長から説明を受け、



旧金山中学校体育館に格納されている人参収穫機を見学



△開通前の高速道路上で、担当者から説明を受ける参加者の皆さん

▽なんぶ〜香房森のパン屋で熱心に説明を聞く参加者の皆さん



## かなやま湖畔で 記念植樹 「フォレストタウン 記念植樹祭」



10月14日、「フォレストタウン記念植樹祭」がかなやま湖畔で行われました。この事業は、毎年、結婚やお子さんが誕生されたご家族に参加を呼び掛けて行なっているものです。当日は、あいにく雨が降る中での植樹となりましたが、11世帯41名の皆さんが参加して、参加者の名前と記念日が書かれたプレートが建てられている場所に、エゾヤマザクラの苗木を植樹しました。



記念植樹の後には、参加した皆さんが見守る中、来賓による植樹も行われました。参加した皆さんには、木製の額に入った記念証が池部町長から贈呈され、最後に全員で記念撮影を行い、今後の苗木の成長を楽しみにしながら笑顔で会場をあとにしました。

## 空知川の上下流域が植樹で交流

10月14日、かなやま湖畔のアオダモの森で、「緑とエコ」サポーターネットワーク水源の森創造交流会が行われ、滝川市のボランティアグループ「緑とエコ」サポーターネットの皆さん32名が参加して、アオダモやシラカバなど4種類の苗木が植樹されました。

植樹の後には、交流会も行われ、滝川市の田村弘市長から、空知川上流部に位置する南富良野町の森づくりに対して感謝のことが述べられました。また、植樹を通して上下流域の交流について、今後も継続して取り組んでいくことについて確認され、池部町長と固い握手を交わしていました。

この事業は、空知川の最上流部に位置する本町と空知川を水道水源として利用している下流域の滝川市が共通の認識を持ち、一体となって水源の確保を維持することを目的として開催されています。

これまでに、シラカバなど5種類200本の苗木を植樹いただいております。この事業に参加された滝川市民の皆さんにも、本町の森林整備活動に触れることで、理解を深めていただいております。

